

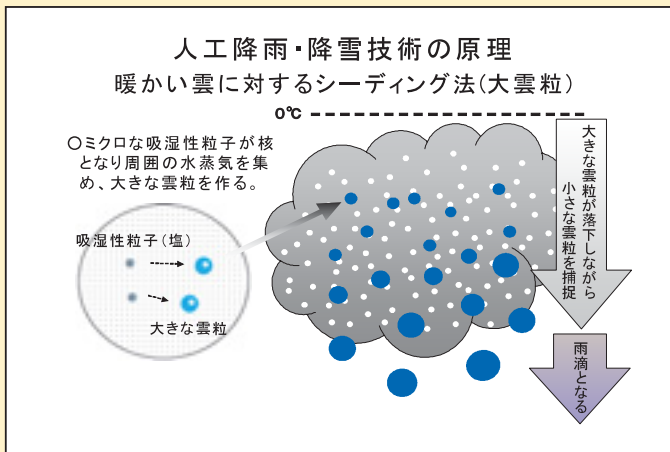
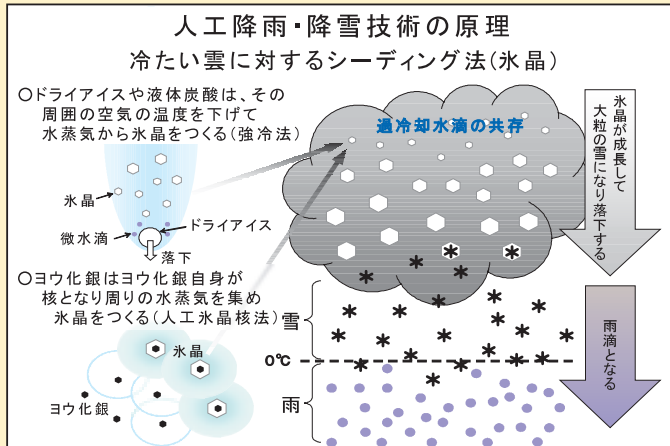
Q.なぜ人工降雨を研究するの？

A.日本国内では数年に一度の割合で渇水が起きています。渇水は市民生活や経済活動に大きな影響を与えます。人工降雨は、その対策として有望な技術です。

Q.どうすれば人工的に雨を作り出せるの？

A.ドライアイスなどを雲の中に撒いて(シーディング*して)無数の氷の粒を作り、それを成長させる方法や、小さな塩粒などを撒いて雨粒の成長を促進させる方法があります。

*シーディング:雨や雪の成長を促進させる物質(ドライアイス・液体炭酸・吸湿性粒子等)を雲に撒布すること



矢木沢ダム H6 渇水

文部科学省 科学技術振興調整費 平成18年度新規採択課題
「重要課題解決型研究等の推進」

渇水対策のための人工降雨・降雪に関する総合的研究

私たちは、人工降雨を中心とした渇水対策に関する研究を通して、安全・安心で質の高い生活のできる国の実現に貢献します。

研究代表者 村上正隆(気象庁気象研究所)
責任/中核機関 気象庁気象研究所
参画機関 (独)情報通信研究機構
(独)防災科学技術研究所
(国)東北大学大学院理学研究科
(国)京都大学生存圏研究所
(財)日本気象協会
いであ株式会社
三菱電機特機システム株式会社
協力機関 地球環境フロンティア研究センター
(国)富山大学理学部
利根川・吉野川・その他ダム統合管理事務所
実施予定期間 平成18年度～平成22年度
参画・協力研究者 約40名

文部科学省科学技術振興調整費に関するウェブサイト
URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chousei/

お問合せ先

気象庁気象研究所 企画室
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
TEL. 029-853-8536 FAX 029-853-8545
URL: <http://www.mri-jma.go.jp/>

責任/中核機関 気象庁気象研究所



矢木沢ダム